



I.B.MUSEUM SaaS リニューアル情報 EXPRESS

発行元:早稲田システム開発株式会社 東京都新宿区高田馬場4-40-17 tel.03-6457-8585

✉ maps@waseda.co.jp 🏠 www.waseda.co.jp/

Vol.7 2022.08.31 今回のテーマ | 資料利用

今回の内容

日頃は「I.B.MUSEUM SaaS」をご利用いただき、誠にありがとうございます。今回は、前号から少し長めの制作時間をいただきましたが、お待たせして申し訳ございませんでした。また、回を追うごとにやや複雑な機能も登場しておりますが、ここまで大きなご不明点はございませんでしょうか。

さて、第7号となる今回は、「資料利用」がテーマです。弊社がI.B.MUSEUM SaaSを単なるデータベースではなく、学芸業務そのものを強力に支援するツールと位置付けているのは、実はこの機能の存在によるところも大きかったりします。言うなれば、最も「らしい」機能のひとつとなるかもしれません。

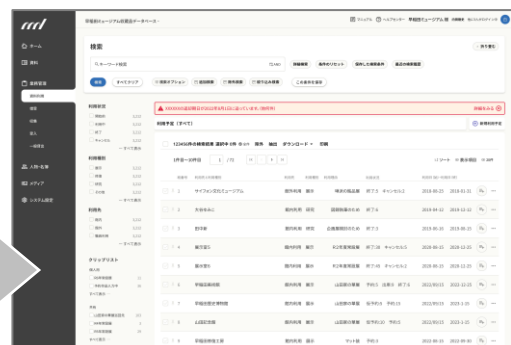
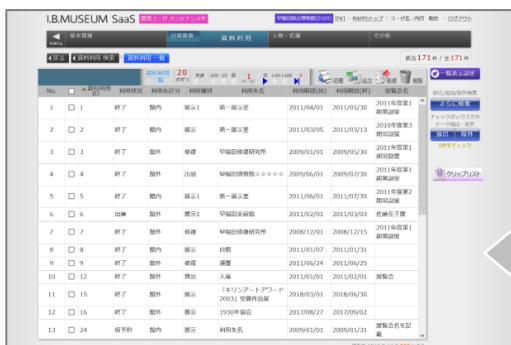
1990年代のI.B.MUSEUM シリーズから続くこの機能、当初は「貸出管理」と呼んでいました。他館に資料や作品を貸し出す際に「いまその資料がどこにあるか」を瞬時に把握できる機能で、ダブルブッキングを防止しつつ、出品歴まで自動蓄積。カード側に手入力することなく、貸出情報に対象となる資料を紐付けることで自動転記されますので、同じ情報を何度も入力する必要がありません。これは、現在も特筆すべき機能です。

基本思想は「貸出管理」時代に遡る歴史ある機能ですが、今回のリニューアルでさらに使いやすくなります。そこで今回は、このI.B.MUSEUM シリーズらしい機能の改善点をご紹介します。

I.B.MUSEUM SaaSリニューアル情報 EXPRESS 発行予定

Vol.1	2022/1/31	リニューアル計画概要とログイン画面
Vol.2	2022/2/28	デザインコンセプトとホーム画面
Vol.3	2022/3/31	検索トップと検索結果一覧
Vol.4	2022/4/30	詳細画面の特徴
Vol.5	2022/5/31	データ登録方法とクリップリスト
Vol.6	2022/7/15	人物・名簿とメディア
Vol.7	2022/8/31	資料利用 Now!
Vol.8	2022/9/30	公開設定
Vol.9	2022/10/31	項目設定
Vol.10	2022/11/30	ユーザ管理・一括処理
Vol.11	2022/12/31	帳票設定
Vol.12	2023/1/31	移行方法と並行運用について
Vol.13	2023/2/28	総集編 (Vol.1からVol.12までを1冊に)

※Vol.6(今回)の発行日を当初予定から半月、Vol.7(次回)の発行を1か月延期いたしました。



各部の名称



「リニューアルEXPRESS Vol.7」では、画面の各部を以下のように呼びます。

- ① 上部バー
- ② グローバルナビゲーション
- ③ タイトルエリア
- ④ サイドバー
- ⑤ メインエリア
- ⑥ セグメンテッドコントロール



リニューアル情報⑩ 資料利用

操作が複雑になりがちな資料利用だけに 情報へのアクセス環境を劇的に改善

● 資料利用のステータス名称変更

資料利用とは、展示や貸出など、主に資料の所在が動くこと(イベント)を指します。現行システムでは、この動きを示すステータスについて、少々議論がありました。というのも、それが現在のイベントの状態なのか、現在の資料の状態なのか、混乱を来すケースがあったからです。

他館から貸出の依頼があった時、展覧会を計画した時などは、まずそのイベントの情報を登録し、次に対象となる資料を紐付けます。イベントのステータスが「仮予約」「予約」「出庫」「入庫」と進んでいくと、対象資料側のステータスも同時に更新されます。加えて、貸出先から一部だけ先行して返却されたり、前期・後期に分けて一部の資料を入れ替える場合などに備えて、対象資料のステータスは個別に変更することも可能となっています。

とても細やかな対応を可能とする機能ではあるのですが、ここで、そのステータスに使われている語句がイベントを指すのか、資料個別の現状を指すのかについて、曖昧になりがちでした。また、たとえば資料の仮予約が1点、うち出庫が10点の場合も「資料利用イベント」としてのステータスはあくまで「仮予約」となるため、誤解を招く心配も。

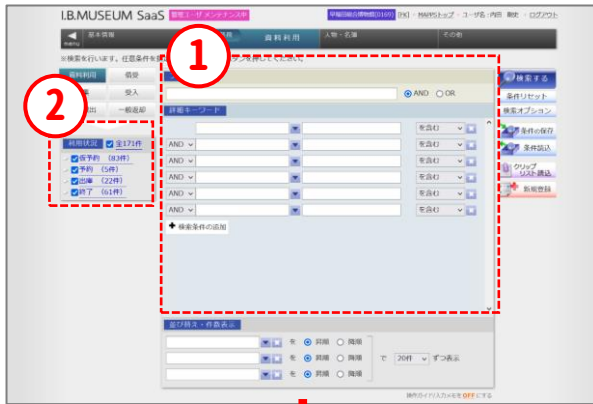
そこで、今回のリニューアルでは、資料利用のステータスは「そのイベントの進行状況」と再定義。用語も分かりやすく「開始前」「利用中」「終了」とする予定です。



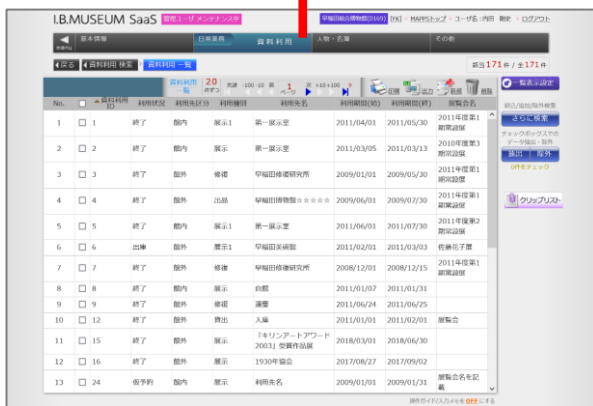
【現行画面の利用状況ステータス】



【リニューアル後の利用状況ステータス】



【現行資料利用トップ】



【現行資料利用一覧】

資料管理トップなどと同様に、現行画面の検索トップと検索結果一覧のふたつの画面が「資料利用トップ」に統合されます。

- ① 検索パネル | 資料管理と同様に、新デザインでは画面上部に簡易検索パネルが表示されます。詳細検索はワンクリックで開きます。
- ② サイダー | 現行デザインでは、資料管理の大分類と同様に、ステータス選択ボタンが表示されていました。新デザインでは、ステータスだけでなく、利用種別や利用先までサイダー上で選べるようになります。
- ③ 期日到来メッセージ | 今回のリニューアルで新設される機能です。貸出の返却期日が経過した資料、期日が近づいている資料などに対し、注意喚起のアラートが表示されます。画面内でとても目立つので気付きやすく、内容は「詳細をみる」ボタンから確認できます。
- ④ 一覧エリア | 現行画面では検索の次画面で表示されますが、新デザインでは最初から画面に表示されます。
- ⑤ 資料の利用状況毎の件数表示 | こちらも新機能となります。ひとつの資料利用情報に登録されている対象資料のうち「出庫中のものが何件あるか」など、トップから移動することなく詳細情報の一部を視認できます。



【リニューアル後資料利用トップ】

メニュートップで一覧が表示される仕様は資料管理画面と同様ですが、むしろこの資料利用画面で大きな効果を発揮するはずですよ。と言うのも、たとえば利用状況が「開始前」のデータが数十件に及ぶケースはそう多くないと思われませんが、それだけに、展示・貸出準備中の

データをメンテナンスしたい時には、サイダーの「開始前」をクリックするだけでメインエリアに目的のデータが表示される可能性が高まるからです。このように、新デザインでは、使い込むほどに思わぬ形で必要な情報に最短距離でアクセスできる場面が増えることでしょう。

資料利用の詳細情報は 精度をより高めるための改善を実施

● ダブルブッキングチェックの変更

I.B.MUSEUM SaaSでは、すでに予約や出庫となった資料は利用できないようにするダブルブッキング防止機能が用意されています。これは利用日の日付情報で管理しているのですが、ある利用の終了日と次の利用の開始日が同日に指定されている場合にもチェックが働く

仕様となっています。しかし、他館への貸出ではなく館内展示などで資料を移動する際は、入庫・出庫が同日となっても不思議はないため、チェック機能を働かせる必要はありません。そこで、今回のリニューアルでは、資料利用のステイタスを「終了」に指定すると、重複チェックの対象から外せる仕様に変更しました。

そのほか、資料利用の詳細画面では、以下のような改善を予定しています。

① 資料の詳細情報と同様に、タブで情報を小分けせず、画面が下方方向に伸びる仕様を採用します。サイドバーはアンカーになっており、クリックすると対象資料のエリアにジャンプ。目的の情報を瞬時に表示することができます。

② 資料利用詳細では、対象資料の先頭数件が表示されています。全体を見たい時は、左上の「一覧」ボタンで一覧画面を表示できます。

対象資料一覧は、 一目で把握、まとめて処理。

● 対象資料一覧のステータスを個別に編集する

対象資料のステータス変更は、現在はプルダウンメニューで選択する方法を採っています。今回のリニューアルでは、多数の対象資料を一気にまとめて変更できるようになりますが、「そこまでの数ではないので、この画面でパツと終えたい」という場合、プルダウンは操作がやや面倒。また、スマートフォンやタブレットでは、少し繊細なタッチが必要にもなります。

そこで、新デザインでは、「セグメンテッドコントロール」というスイッチが並ぶインターフェイスを採用します。プルダウンでは2回のクリックとマウスの移動が必要となるところ、セグメンテッドコントロールなら一発で完了。また、このインターフェイスには、編集の操作がしやすいだけでなく現在のステータスがひと目で分かるという利点もあります。

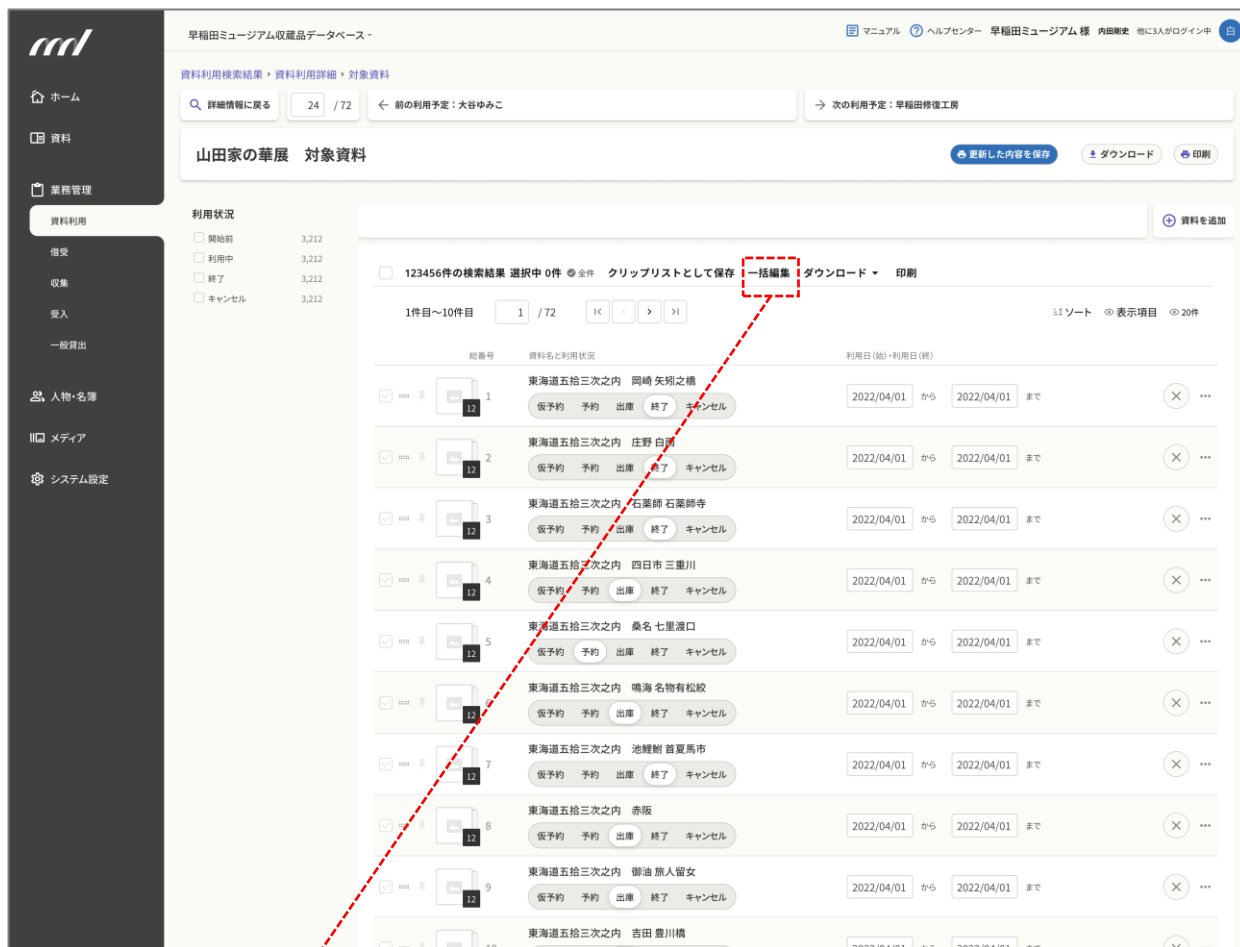
【セグメンテッドコントロール】



ドラッグ&ドロップで、対象資料の順序を入れ替えることができます。

対象資料から除外します。

【対象資料一覧画面】



【対象資料一覧画面】



【対象資料一括編集のモーダル】

● キャンセルのステイタス(検討中)

「対象資料を予約していたけれどキャンセルになった」という場合、現在のシステムでは対象資料から除外する操作で対処していました。今回のリニューアルでは、新たに「キャンセル」というステイタスを設定することを検討中。現在、社内で実装のための検証を進めています。

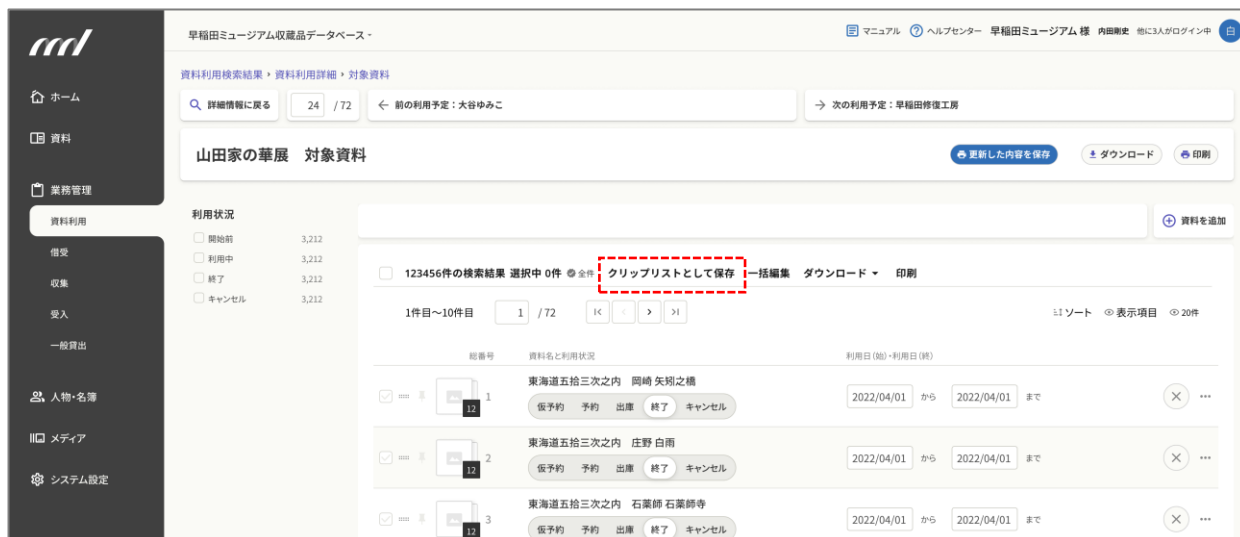
● 対象資料一覧のステイタスをまとめて一気に編集する

これも今回のリニューアルの注目ポイントのひとつ、対象資料のステイタスを一括編集できる新機能です。

現行システムでは、対象資料のすべてに対してステイタスの変更を行いたい場合には、イベントのステイタスを操作することで資料のステイタスもまとめて変更できました。しかし、たとえば50点を貸出していて、うち45点のみにステイタスの変更が発生した際には、現状ではプルダウンでステイタスを選ぶ仕様となっているため、45回も繰り返すことになります。また、50点すべてのステイタスを一度に変更する場合でも、イベントとしての資料利用のステイタスと、個別資料の状態についてのステイタスは用語を分けることになりますので、資料利用のステイタス変更をそのまま対象資料のステイタス変更に転用することはできません。

そこで、ステイタスなどの情報をまとめて編集(変更)できる機能を追加。編集対象の資料をチェックボックスで選択し、画面上の「対象資料一括編集」をクリックすると、「利用状況」「出庫日」「入庫日」を一括編集するためのモーダルが開きますので、まとめて変更することができます。

また、対象資料はドラッグ&ドロップで並び替えることもできます。



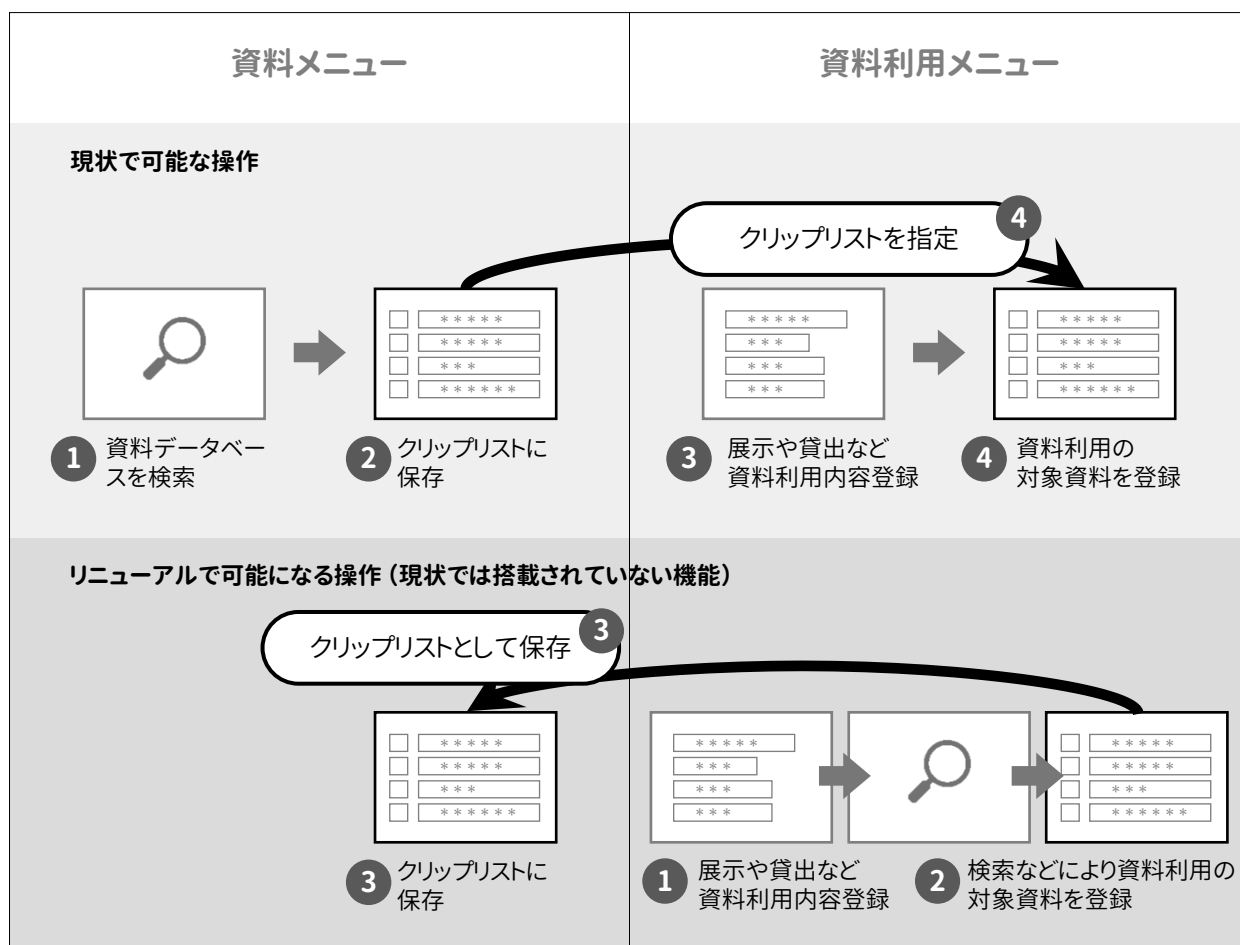
【対象資料一覧画面】

● 対象資料一覧をクリップリストとして保存

最近、積極的に活用される方が急増中のI.B.MUSEUM SaaSの注目機能、クリップリスト。対象資料を展示や貸出の情報へと紐付ける際にも、資料管理画面で作成したクリップリストを丸ごと資料利用の対象として設定する方法で活用できますが、資料管理ではなく資料利

用の画面で作成した対象資料一覧のリストをクリップリスト化して保存・再利用することはできませんでした。

クリップリストの便利さが浸透してきた最近では、資料利用画面から直接作成したいというご要望が増えてきました。そこで、新デザインでは、クリックひとつでクリップリストとして保存できるボタンを追加しました。



今回のまとめと次号のお知らせ

ここまでお読みいただき、誠にありがとうございました。

冒頭でも触れましたが、今回ご紹介した資料利用に関する機能は、I.B.MUSEUM SaaS に搭載された膨大な機能の中でも最も「業務システム寄り」と言える部分のひとつです。ただし、資料が移動する時のための機能ということで、原則として資料情報がひと通り登録されていることが前提となりますので、やや上級者向けと言えるかもしれません。

資料利用は、その資料の現在状況を正確に把握するための機能ですが、一方では出品歴など利用状況を記録して蓄積するという重要な役割も担います。ステータスの変更とその日付をもとに、資料カードに登録された「現在位置」の所在情報が自動的に書き換わりますので、資料の詳細情報を開くだけで「この資料は現在他館に貸出中」といった情報が得られるわけです。

このように、資料利用ではひとつのデータがあちこちに行き来します。使いこなせば非常に強力な機能ですが、その分、操作がやや複雑に。そこで、今回のリニューアルでは、できるだけ直感的に扱える環境づくりを通して、機能の効果を際立たせることに成功しました。このリニューアル情報EXPRESS第7号では、その一端をご紹介した次第です。

なお、このリニューアルにおいては、インターフェイスの刷新と並行して、裏側でそれを動かすためのプログラムの再整備も実施しています。リニューアル情報EXPRESSでは端々に「実装確定ではないが現在計画・検討中」という説明を付記しておりますが、これは主に「今回のリニューアルでの実装を目指しているものの、さらなる議論やブラッシュアップが必要と判断した場合は、以降の機能改善で追加予定」であることを意味します。プログラムレベルでの見直しは、機能追加のペースアップを目指す上での基盤整備でもあります。したがって、今回のリニューアルでは搭載を見送っても、その後、早期に追加実装となる機能もあるかと存じますので、ぜひご注目ください。

次号は、公開設定機能の紹介となります。この2年半はコロナ禍に翻弄されましたが、その間、博物館のデジタル活用や情報発信のあり方は大きな変化を遂げました。資料データベースのインターネット公開は行わないという方針を転換した館も多いことから、これまで業務システムのサブ機能的に捉えられがちだったI.B.MUSEUM SaaS の公開システムとしての能力が、改めてクローズアップされています。これから情報公開を充実したい館、新たに推進したい館に大きく貢献できる機能ですので、ぜひご期待ください。



- ※ 掲載スケジュールは、すべて発行時点での予定です。開発の状況により変更となることがございます。
- ※ 掲載のリニューアル画面は開発中のものです。